



新春提言

人口減少下でも成長を続ける山形県経済

日本銀行山形事務所 所長 川村 憲章

人口減でも県経済は縮んでいない

昨年、山形県の人口が100万人を下回った。人口減少のもと、「山形県経済も縮んでいる」と思っている方が多い。「人口が減少する中でも、山形県経済は縮んでおらず、全国平均を上回るペースで成長している」事実をお伝えしたい。

統計を確認できる直近10年間（2012～2022年度）の変化をみると、山形県の人口（暦年）が▲9.7%減少する中でも、県内総生産（名目）は15.1%増加した。これは、全国平均（13.4%）を上回っている。電子部品・デバイスを中心とした製造業が県全体の総生産を押し上げた。女性や高齢者の活躍推進により、就業者数の減少を小幅に抑制したことも奏功した。

県内総生産を地域別・市別にみると、人口減少を一人当たり総生産の伸びでカバーし、プラス成長を実現している先が多い。一人当たり総生産の伸びが高い地域や市では、製造業の押し上げ寄与が高い。

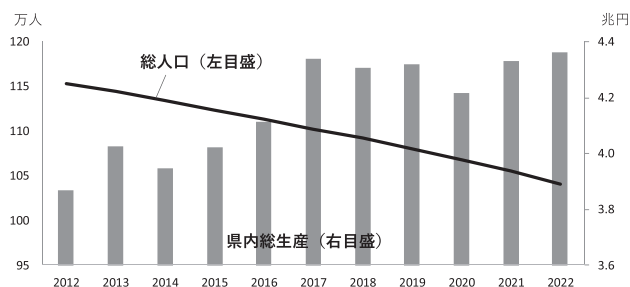
この間、一人当たり県民所得は、全国3位のペースで増加し、東北トップの水準となっている。

2026年も持続的成長に向けた取り組みを

生産性は、過去と同じ工夫では、向上しない。施策を従来以上に幅広く検討し、成果を着実に出していくことが重要である。全国の企業では、▽AI等のデジタル技術活用の広がり、▽規模拡大を通じた収益強化策からの脱却、▽人員配置や事業・サービスの抜本的見直し、▽企業をまたぐ経営資源の共用化など、投資・事業戦略面で様々な対応や工夫を進めている。

今後も、人口減少が経済にもたらす負の影響を克服し、持続的な経済成長を実現し、県民のウェルビーイング（個人や社会の良い状態、幸せ）が一段と高まることを期待したい。

県内総生産と人口の推移



（出典）山形県・市町村民経済計算

（注）県内総生産（実質）は年度。総人口は暦年。

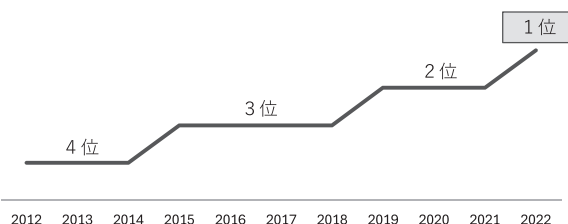
県内総生産と人口の増減率（2012～2022年度）

	総生産		
		総人口	一人当たり総生産
山形県	15.1%	▲ 9.7%	27.6%
村山地域	10.0%	▲ 6.7%	17.9%
山形市	13.3%	▲ 3.8%	17.8%
寒河江市	5.0%	▲ 5.9%	11.5%
上山市	4.6%	▲ 14.5%	22.3%
村山市	▲ 5.0%	▲ 17.0%	14.6%
天童市	17.0%	▲ 1.4%	18.7%
東根市	11.9%	1.4%	10.4%
尾花沢市	▲ 10.2%	▲ 22.7%	16.1%
最上地域	2.7%	▲ 17.4%	24.4%
新庄市	7.0%	▲ 13.1%	23.1%
置賜地域	10.8%	▲ 12.2%	26.2%
米沢市	11.0%	▲ 10.0%	23.2%
長井市	12.1%	▲ 10.8%	25.6%
南陽市	13.3%	▲ 11.1%	27.5%
庄内地域	32.3%	▲ 11.6%	49.5%
鶴岡市	61.7%	▲ 11.5%	82.7%
酒田市	6.6%	▲ 10.8%	19.5%
全国	13.4%	▲ 2.1%	15.8%

（出典）山形県・市町村民経済計算

（注）総生産（名目）は年度。総人口は暦年。

本県の一人当たり県民所得の東北内順位



（出典）内閣府・令和4年度県民経済計算